

## 新ラボラトリー（Pan African Hub for Infectious Diseases Research）概要

### 【背景】

国立大学法人長崎大学は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の『医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業・アフリカにおける顧みられない熱帯病（NTDs）対策のための国際共同研究プログラム』により、2015年からケニア中央医学研究所（KEMRI）と共同で研究開発を実施している（課題名：「アフリカのNTD対策に資する大陸的監視網に向けたイノベティブ・ネットワークの構築：一括・同時診断技術を基軸とした展開」）。

本研究開発は、一括・同時診断技術を用いたアフリカの大陸レベルでのNTDサーベイランスの構築とそのネットワーク化を目指しており、1）研究開発をケニア国内で実施し、アフリカに拡げること、2）人材育成と情報共有のためのネットワークを形成すること——の2点を目的としている。今回開所した「Pan African Hub for Infectious Diseases Research」は、研究開発・人材育成を促進する事を目的として設置された。

### 【目的】

本Hubは、顧みられない熱帯病などの感染症の診断技術に関する研究開発の実施や感染症サーベイランスに関する技術と情報の交流・発展を目指すアフリカ・ネットワークの構築、さらには、フィールドから分子レベルまでの疫学研究を実施するとともに、それらの研究開発活動を通じた若手研究者に対する研究支援による人材育成を目指す。

### 【施設建築と機材整備について】

本Hubの本棟は、AMEDの支援により2016年度に完成し、2017年度において、AMED支援による顧みられない熱帯病の一括診断技術の開発ラボとして、整備を行ってきた。

また、新棟については、本Hubの目的に賛同した他の団体（ROCHE, Clinton Health Access Initiative (CHAI), ABBOT, USAID）が資金を提供し、建築と整備を行った。この度、新棟が完成したことにより全棟がそろう、開所式を行うこととなった。

特に、新棟は、ROCHEからの寄付金により建築がなされ、さらに、フルオートメーション化されたハイスループットの遺伝子検査システム（Cobas®8800）も寄贈され、本Hub内ラボに設置される。本棟に設置された機器と合わせて、今後、アフリカを引っ張る最先端の感染症研究活動の展開が期待される。



Pan African Hub for Infectious Diseases Research 見取図